

じよろん み は にん いの 序論：見張り人の祈り

イザヤ62:6-7

6 エルサレムよ。わたしはあなたの城壁の上に見張り人を置いた。昼の間も、夜の間も、彼らは決して黙って
いてはならない。主に覚えられている者たちよ。黙りこんではならない。

7 主がエルサレムを堅く立て、この地でエルサレムを栄誉とされるまで、黙っていてはならない。

すべての宗教は「祈り」があります。宗教を持っていない人たちも「祈り」ます。そして、その人たちなりに
祈りの答えを受けます。それなら、神の子どもである私たちの祈りと、その人たちの祈りは、どのように違うの
でしょうか。神様は私たちにどんな祈りを要求されるのでしょうか。

上に書いた聖句では「昼の間も、夜の間も、彼らは決して黙っていてはならない。」(7節にも「黙っていてはな
らない」がありますが、その韓国語を直訳すると「(主を)休ませないようにしなさい」ということばです)とあ
ります。神様は全知全能なるお方なので、まどろむこともなく、眠ることもありません。私たちの祈りを、常に
聞いてくださる方なのですが、それなら、私たちが休むことなく、祈り続けることはできるのでしょうか。
いままで、祈りについて、なんども話して来ましたが、今回、もう一度まとめてみます。(昨年の7月にもお話し
しました)

いの 祈りについて

「祈り」はギリシャ語でプロセコウマイ (προσεύχομαι) です。

プロス + エウコマイ
(~に向かって) (願う、求める) の合成語です。



これは、私たちが切に願うことを神様に話すことではなく、私たちに対する神様の切実さがあるということ
です。

ローマ8:26では「…私たちが、どのように祈ったらよいかわからないのですが…」と言われています。それゆ
え、一次的に、私たちに対する神様の切実さがなにかを知らせてくださるときに、そのつぎに、私たちが神様に
向けて正しい祈りをする事ができるのです。それでは、神様が私たちに切実に願っておられることはなん
でしょうか。答えから先に言いますと「イエス・キリストしかありません」

(イエス・キリストだけということは、今月の働き人へのメッセージでも、朴草鐘牧師先生が語っておられま
す。YouTubeに出ているので、参考に聞いてみてください)

マタイ6:33前半

「だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。」

「神の国」としてこの地に来られたのがイエス・キリストです。「神の義」は、ただイエス・キリストしかありません。ですから、「神の国とその義とをまず第一に求めなさい」というのは、ただイエス・キリストだけを求めなさいという意味です。

マタイ7:7

「求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。」

ここでの「求めなさい」「捜しなさい」「たたきなさい」ということは、「祈りなさい」ということです。

これらの単語を、ギリシャ語の単語から見てみましょう。



「求めなさい」 αἰτέω (アイテオー)

一 必ず与えると約束されたことをください

このように「必ず与えると約束されたこと」がなにかを知って、それを求めるときに与えられるということです。

ルカ11:13後半

「天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがありましょう。」

ここにある「求める」もアイテオーという単語が使われています。

ヨハネ14:6で、イエス様は「わたしが…真理であり…」と言われました。また、ヨハネ14:17には、助け主を送ってくださるのですが、「その方は、真理の御霊です。」と言われました。私たちがイエスを主（キリスト）と告白することができるのは「聖霊によること」です。「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません。(1コリント12:3)

救われた神の民である私たちの中には、聖霊がともにおられます。それゆえに、私たちが求めるべきアイテオーは、「ただキリスト」そして「聖霊の満たし」です。

「捜しなさい」 ζητέω (ゼーテオー)

一隠されたものを必ず見つけなければならない

いまそれを見つけないと、私は死んでしまいます。いのちをかけて見つけますという意味です。

コロサイ3:1

こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。



この聖句の「求めなさい」というのが「ゼーテオー」です。イエス・キリストだけが私たちにまことのいのちを与えてくださる方です。それゆえ、ここでもおなじように、私たちがいのちをかけて見つけるべきことは、「神の国」そして、御座からまことのいのちの糧であるみことばを与えてくださる「イエス・キリスト」です。

(みことばは、キリストであり、いのちの糧です。)

ここで誤解してはならないのは、だれでもイエス様を探し求めたら見つけることができる、救われるということではありません。救われた神の民にだけに限られたことです。



「たたきなさい」 κρούω (クルオー)

一開かれるまでたたく

祈りが「たたく」ことなら、私たちは何をたたいて、たたくことによって何を受けるのでしょうか。

そのヒントを旧約聖書から見てみましょう。

旧約聖書(ヘブライ語)で、たたくは נָכַח (ナカ)です。

ナカには、「殺す目的で打つ、死ぬまで打つ、殺す、破壊する」という意味があります。(おそろしい単語ですね)

そのことばは出エジプト17章に出て来ます。

エジプトから出たイスラエルの民は、食べ物がないとつぶやいて、神様がマナを降らせてくださいました。そのあと、のどが渴いたと言って、モーセを恨みます。そこで、神様はモーセを通して、岩を杖で打って水が出るようにしてくださいました。ここで出て来るのが「ナカ=たたく」という単語です。

出17:6

さあ、わたしはあそこのホレブの岩の上で、あなたの前に立とう。あなたがその岩を打つと、岩から水が出る。民はそれを飲む。」そこでモーセはイスラエルの長老たちの目の前で、そのとおりにした。

この事件のことを、新約聖書でパウロがIコリント10:4で書いています。

Iコリント10:4

みな同じ御霊の飲み物を飲みました。というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。その岩とはキリストです。

「たたく」という単語を見ると、「聖なる飲料、いのちの水を得るために、岩であるキリストを打つ」という意味です。岩であるイエス・キリストは、2000年前にカルバリの丘で十字架にかけられて、血を流して死なれました。そのときに、聖所と至聖所を分ける幕が上から下まで真っ二つに裂けました。神様自らが裂かれたのです。十字架で血を流されたことによって、神様に行く道が開かれたということです。岩であるイエス・キリストが「たたかれた」死、流された血によって神様に行く道が開かれたということです。イエス様が十字架で血を流された事件は、2000年前にあった過去の事件で終わってはいけません。いまでも躍動的に、続けて起こっている、毎日の事件でなければなりません。

聖餐式をすることも、毎日しても、毎月しても、一年に一回でも関係ありません。

Iコリント11:26「ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。」と言われているように、聖餐式の意味は、十字架の死を記念する（覚えなさい）ことです。イエス様が血を流されたことは、私たちの毎日の生活の中で、実際に起こるべき事件です。



結論

見張り台=いま私がいる場

いま、それぞれが置かれている場、学生、会社員、主婦・・・なんでも、その場が神様が立ててくださった見張り台の場です。

見張り人の祈り=ただキリスト（使徒1:1）、ただ神の国（使徒1:3）、ただ聖霊の満たし（使徒1:8）

そこに立てられた見張り人として、食べること、寝ること、勉強すること、仕事すること、毎日与えられた24時間の中で、ただキリスト、ただ神の国、ただ聖霊の満たしを求め祈りで始め、また、一日をしめくくるように願います。それが見張り人の祈りです。

学院福音化のメッセージは、今月で使徒27章が終わりますが、レムナントデイのメッセージを繰り返して聞いて黙想してください。